

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- **7日間新規陽性者数における前週増加比が3週連続で1.6～1.8倍となっており、7/29には932名が確認。急速に感染が拡大。第四波の感染急拡大の大きな要因となったアルファ株よりも、感染力が約1.5倍高いとされるデルタ株への置き換わりは、現時点で約3割のところ、8月末には7割前後に置き換わると予測されており（アドバイザリーボード資料）、デルタ株の置き換わりが約8割まで進んでいる東京都の感染急拡大を踏まえると、今後、第四波を大きく上回る感染急拡大が懸念。**
（第四波（アルファ株）の前週増加比1.1倍という前提での試算では、新規陽性者数は2,500人を上回る。）
- **緊急事態宣言解除後、第四波と比較して、人流が急拡大した状態が1か月以上にわたり継続しており、夏休み、お盆等による行事など、感染機会の更なる増加も背景に、感染拡大のリスクが高まっている。**
- **現在、府では65歳以上のワクチン接種済（2回）の割合は、同年齢層の約7割となり、60代以上の新規陽性者数は微増にとどまり、新規陽性者数に占める割合も第四波の3割から1割未満に減少。**
しかし、新規陽性者数のうち、40代未満が占める割合が6割を超過していることから、今後、これらの世代を通じて、家庭内や職場等にも感染が広がっていく可能性がある。
- **また、新規陽性者に占める感染経路不明の割合が6割以上であり、市中感染が急拡大していく恐れ。**

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- **直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は、市内居住者が急増（約70人）。市外も分科会指標のステージⅣ（25人）の基準を超過。**

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者数は増加傾向にあり、人数は第四波緊急事態措置適用直後の人数を超過。滞在分類として、居酒屋・飲食店に滞在した陽性者が多く、滞在エリアとしては市内外ともに増加。**
- **クラスターとしては、第三・四波と比べ、高齢者施設関連の割合が低いが、大学・学校関連と企業事業所関連の割合（施設数ベース・陽性者数ベース）が増加。**

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 医療機関の多大なる御協力のもと、重症病床数は587床、軽症中等症病床は2,510床を確保（7/29時点）。
- **ワクチン接種の推進により、60代以上の重症患者数は減少が期待されるが、ワクチン未接種層における40・50代の重症患者や、軽症中等症など入院を必要とする患者は、感染の急拡大や、重篤度が高く、ワクチンや抗体医薬の効果を弱める可能性がある**とされるデルタ株の影響により、増加が予想。**軽症中等症病床を中心に医療体制がひっ迫する可能性がある**。（東京都 7/29時点 重症者に占める40・50代の割合 43.5%）
- 第四波（アルファ株）の前週増加比1.1倍という前提での療養者数の試算では、重症者数は最大値426名（8/26）と確保病床数の範囲内であるが、軽症中等症は5,123名（8/24）、宿泊療養者数は9,815名（8/20）と、いずれも確保病床数、宿泊施設部屋数を大きく超過する可能性。

今後の対応方針について

- **新規陽性者数が急増**。感染力がアルファ株（第四波で置き換わり）より1.5倍高いとされる**デルタ株への置き換わりや、人流の急拡大、夏休み、お盆等による恒例行事など、感染機会の更なる増加も背景に、第四波を上回る感染拡大が懸念**。新規陽性者数の6割以上を占める40代未満から今後、家庭等への感染拡大や市中感染の拡大も懸念。
- 65歳以上へのワクチン接種の進捗により、60代以上の新規陽性者数は他の年代が急拡大するなか、微増にとどまっており、重症患者の減少も期待。一方、**ワクチン未接種層における感染拡大や変異株の影響などにより、ワクチン未接種層における40・50代の重症患者や軽症中等症患者の増加が予想**。今後、**感染急拡大に伴う医療提供体制ひっ迫の恐れ**。
⇒**今回の緊急事態措置適用により、感染急拡大を早期に防止することが必要**。

⇒**併せて、ワクチン接種の円滑化・加速化や、軽症中等症病床の更なる確保など入院医療体制の強化、宿泊・自宅療養における対応の充実など今後の医療提供整備を引き続き図る**。